

差別と向き合う姿勢を

2009年差別事件報告集会・世界人権宣言61周年和歌山県集會を12月9日、プラザホープでひらいた。県下の支部員はじめ部落解放・人権行政確立要求和歌山県実行委員会、部落解放和歌山県共闘会議、県市町村行政などから約250人が参加した。



村崎修二・座長

集會は、川合孝志・和歌山同和問題企業連絡会（関西電力）の司会ではじまり、藤本哲史・県連記長から第1講「基調提案」がなされた。つづいて、第2講「差別事件の実態」を福島隆志・県連糾弾闘争本部事務局長から報告された。福島事務局長は「法」の失効後、行政窓口が「同和」から「人権」に変更され、社会のなかで「同和問題は終わった」という認識が強くなった。県行政は「同和問題は依然として存在している。解決に向けて一般対策に工夫をこらして施策をおこなう」というものの、露骨な差別事件が多発し、また、エセ同和行為が続発している。電話による高額な書籍販売がかかってくることも、勝手に判断せずに県行政や解放同盟に連絡してほしい。県連事務局の名前を騙って書籍を売りつけることもあるが、県連から書籍購入の電話をすることはない。企業は「業務中に執拗に電話をかけてこ



村崎耕平・若頭と夏水くん

れ、業務を止めてしまうという考えをもっているかもしれないが、書籍を購入することでエセ同和行為を助長させることになる」と強く訴えた。

第3講では「世界人権宣言61周年和歌山県集會」を記念して「猿舞座」を招いた。はじめに「復活・猿まわし」と題して村崎修二「猿舞座」座長から、一度途絶えた猿まわしを復活させるまでの道のりをギターにのせて説明があった。次に古来より受け継がれてきた「本仕込み」による猿まわしを村崎耕平「猿舞座」若頭と夏水くんによる猿まわしが披露された。猿まわしの発祥地が和歌山県であることが説明されると、参加者から驚きの声とともに、テレビなどで見る「荒仕込み」とは違った「本仕込み」による調教方法での猿まわしに参加者も席を立ち見入った。

最後に赤松明秀・同和問題にとりくむ和歌山県宗教団連絡協議会会長の閉会あいさつで集會を終えた。

統一応募用紙違反に対する見解

「統一応募用紙」のとりくみは、部落解放運動の就職差別反対の闘いから起こり、70年に近畿や広島で実現し、さらに73年に全国化したものである。しかし「統一応募用紙」違反事件は全国から報告されている。また、最近では民間職業紹介や人材派遣の過程でも、さらに自治体関係で違反が発覚している。

このようなとりくみのなか昨年、岩出市の採用試験で応募書類とともに「自己健康診断申告書」の提出を求め、試験をおこなっていた事実が発覚した。この「自己健康診断申告書」の内容は、障がい者を排除する差別調査であった。さらに「記載内容に虚偽の申告があることが判明したときは、採用後であっても取り消される場合がある・・・」と記載されている。

今回の岩出市の問題を機に、他の市町村で同様の「違反事案」の有無を点検・指導を要請した結果、4市で「自己健康診断書」の提出を求め、3市町で医師による健康診断書の提出を求めていることが判明した。

「部落地名総鑑」のあらたな発覚、「電子版・部落地名総鑑」の発覚、さらにはあいつく「戸籍謄本等大量不正取得」事件と身元調査の実態を考えたとき、就職差別撤廃に向けたとりくみをいっそう強化しなければならぬ。

連載 (23) 部落解放運動の歴史と伝統を！

「解放への怒濤」

和歌山県に於ける西川事件差別糾弾闘争の記録

然し、和歌山県議会は、果して、その事実を約束することができようか。もし、そのことをわれわれに約束できず、唇寒い思いがあるならば、その時こそ、和歌山県議会は、差別者西川県議の追放を以て、一時をコトしようとした、その態度を責められなければならないであろう。

和歌山県政は、単は、一人の差別者西川県議の追放によつて、コトすることのできない差別性を、本質的に内包している。それだからこそ、その本質的な差別性に照射されて、西川県議は臆面もなく、差別的言辭を弄することができるのであり、しかも、ぬけぬけとそれを差別でない、といふくめるめようとするふてぶてしさを持っているのである。もし差別の本質をエキケツすることなく、一時をコトしてすすすならば、第二第三の差別者を統発するであろうことは火をみるよ

り明らかである。その時に於て、和歌山県議会は、何と答え、どういふ解決策をとうとうするのであるか。

和歌山県議會在、差別者西川県議追放をもつて終れりとしようとした態度の底には、差別者の責任としようとする意識が決定的である。然して、この和歌山県議會全般の意志と相つながらるに、われわれは、和歌山県知事の差別に対する考え方を発見して再び、がく然とするのである。海草地方人権尊重推進協議会発行、四月五日付「新しい道」に、「私はかく念じている」小野知事は自己の信念を綴っている。「私は民主政治の真髓を、県政の実際面に具体化してゆこうという熱意は決して人後におちない」と確信し、「人間が人間を冒瀆し恬然として恥じ人もなくする日を期待しつつ県行政をおし進めている」という。小野知事が、「人後におちない自己の熱意」を過信しているに、わらず、「愚劣な県民」の一人もないことを期待しているにもか、わらず、そのおひざ下の県議會から、「愚劣な県民」差別者西川県議が、のこくと這い出



春駒は、祝儀箱として門付けにまわる芸能のひとつ。湯淺の被差別部落では、正月になると大阪や京都まで旅をした。

「しかと乗り込め、乗ったのは初馬い」で始まる湯淺町の春駒は被差別部落の人びとが担ってんだよ!

正月には大阪や京都まで祝儀を運んで門付けにまわってたんだって

被差別部落の人びとは生きるために芸を遣及して力強く生きてんだ

「愚劣な県民」差別者西川県議が、のこくと這い出

(次号に続く)